

関ヶ原古戦場ビジターセンター（仮称）について 【たたき台】

岐阜県・関ヶ原町

1 これまでの経緯と現状

○平成27年3月

関ヶ原古戦場のあり方、有すべき機能と施設など、関ヶ原古戦場の将来ビジョンを描いた「関ヶ原古戦場グランドデザイン」を策定

○平成28年3月

グランドデザインを踏まえ、「関ヶ原古戦場ビジターセンター(仮称) 基本構想・基本計画」を策定

- ・基本構想: 関ヶ原古戦場の新たなシンボルとして、合戦の正しい知識を伝えるとともに、来訪者へ武将たちの物語を見せ、史跡群のフィールド巡りに誘う中核的施設とする。
- ・基本計画: 現歴史民俗資料館の南側に、展示機能、ショップ機能のほか、展望機能を有する施設を建設する「施設構成(案)」と「施設計画(案)」を作成。

※将来的には、南側の福祉センターが撤去される可能性があることも視野に入れ、徳川家康最後陣地や陣場野公園との一体性を高められるようにする。



○平成28年6月

- ・建設予定地の南側に隣接する「関ヶ原町老人福祉センター」の老朽化が著しいことなどから、関ヶ原町が解体撤去の方針を決定
- ・跡地をビジターセンターと一体的に活用してほしいとの要望



- ✓ 活用できるスペースが倍以上になるなど、計画の前提が大きく変更
- ✓ 関ヶ原町と緊密に連携しつつ、基本計画の抜本的な見直しを実施中

2 ビジターセンターに求める機能(総論・たたき台)

建物は、スペースを有効活用し、諸機能※を一体化して整備

※「パビリオン機能」「合戦ミュージアム機能」「合戦回廊機能」

※施設のイメージ

パビリオン機能

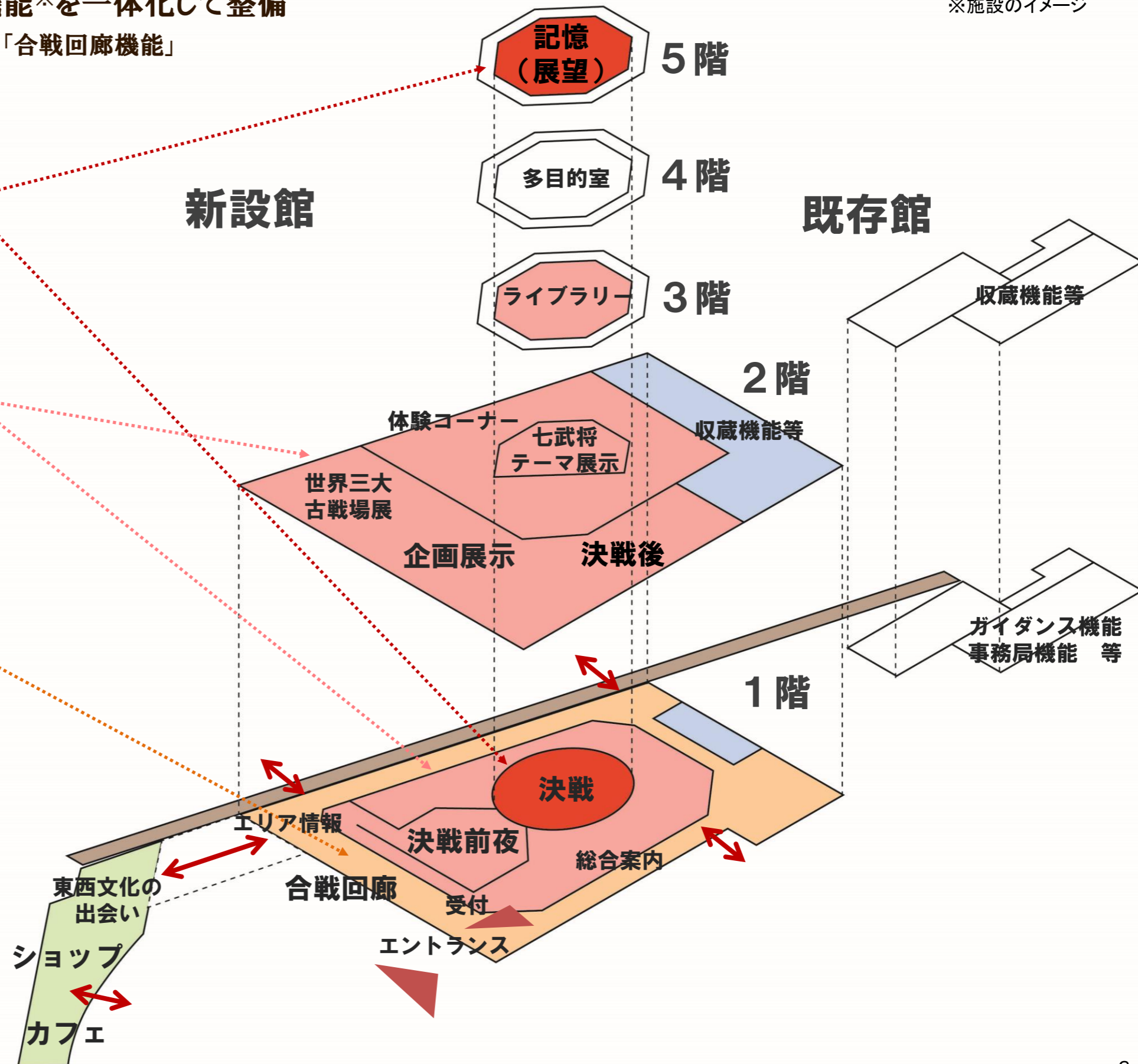
施設の幹となる機能を1階～展望階まで統一
エンターテインメント性を高め、あまり歴史に興味がない観光客も楽しみながら関ヶ原の戦いに触れてもらう。
コンテンツを可変させることで、コアな歴史ファンにも楽しんでもらえる。

合戦ミュージアム機能

展示機能を面的に広く展開
町や県が所蔵する資料を中心に、関ヶ原の戦いの史実を詳しく伝える。
全国の博物館から重要文化財級の資料を借り受け、定期的に企画展を開催する。

合戦回廊

フィールドとの周遊機能と滞留性を確保
展示空間を取り囲む回廊。
総合案内・サービスセンター、エリア情報をシームレスに配置。
カフェ、ショップエリアとは、屋根続きとすることで、回廊との周遊性を確保。
観光客の利便性を高める、にぎわいある空間。



3 ビジターセンターに求める機能(各論・たたき台)

1 展示機能関係

(1) 決戦前夜

関ヶ原合戦に至る悠久の時の流れ、武将たちの生きざまを紹介

- 信長の時代から関ヶ原の合戦へと向かう時代の流れを紹介。
- 東西の武将が、自らが生き残るために行った調略、謀略、水面下の駆け引きなどを現存する資料などで紹介。
- 本戦前夜の各軍の勢力を、パネルやモニター、プロジェクションマッピングなどによりプレシヨ一的に展示。
- 次の決戦展示室の待機スペースとしての機能も付与。

(2) 決戦

関ヶ原の合戦が行われた、「その日」を疑似体験

- ビジターセンターのメインコンテンツとして、最新のVR技術を活用し、映像と音、光と影により戦況を紹介するドラマチックな疑似体験空間を創造。

(3) 決戦後

関ヶ原の合戦が日本の歴史、文化に与えた影響を紐解く

- 大坂の陣と江戸幕府の始まり、関ヶ原で戦った武将たちのその後、江戸時代の関ヶ原や宿場町の様子、明治期以降の関ヶ原の近現代史など、関ヶ原に関連する町や県博物館が所有する資料を展示。
- 展示コーナーの区割りは、可変式。

(4) 企画展示

様々なテーマで来場者を魅了

- 重要文化財級の展示物も他施設から借り入れ、「本物を伝える企画展」も周期的に開催。

(5) 七武将テーマ展示

それぞれの立場から見た関ヶ原をストーリー性をもって展示

- 7つのシンボルストーリーを踏まえ、各武将の視点からの関ヶ原の合戦や、各武将にまつわる資料を企画展示

(6) 体験コーナー

体験型展示で関ヶ原の戦いを体感

- 甲冑や武具の重さなど、実際に手にとって体験できる体験型の資料を展示。

(7) ライブラリー

書籍や映像で関ヶ原の戦いを知る

- 関ヶ原の戦いや戦国時代に関して学ぶことの出来る書籍や映像を配置。

(8) 展望

過去の関ヶ原と現在の関ヶ原を重ね合わせる

- 開発中のVRデータをタブレットやスマートフォンに落とし込み、往時の風景を見ることができるとを検討。
- ビジターセンター外でも、各史跡で武将たちの活躍を疑似体験していただくことも検討。

(9) 世界三大古戦場展

「世界へ羽ばたく関ヶ原」を紹介

- ゲティスバーグ、ワーテルローといった海外古戦場の概要、戦いが平和の実現に果たした歴史的意義、協定締結式の模様や交流内容を紹介。

(10) エリア情報・世界三大古戦場コーナー(無料ゾーン)

- エリア情報では、周辺の観光、歴史資源情報を紹介するほか、地形ジオラマ等を配備。地域ボランティアの皆さん等による活用も念頭。
- 世界三大古戦場コーナーでは、古戦場の概要等をインフォメーション的に紹介。

(11) 東西文化の出会いコーナー(無料ゾーン)

- 不破関や関所が生み出した関西・関東の呼称のはじまりなど、結節点の地としての特徴を幅広く紹介。
- 東西の違いを食品サンプル等で視覚的に紹介する他、試飲食等体験コーナーも設置。

3 ビジターセンターに求める機能(各論・たたき台)

2 その他施設構成

(1) エントランス(無料ゾーン)

- 敷地南側に100人程度(バス2台分)が滞留可能なスペースを確保。
- 正面を南側に配置し、合戦図屏風をガラス越しに見られるようにする等、関ヶ原古戦場らしいシンボル性の演出を検討。

(2) 合戦回廊(無料ゾーン)

- 屋外との連続性や一体感を持たせるため、四方向を自由に巡っていただけよう、回廊化。
- 周遊性と滞留性を確保し、受付やボランティアガイド受付機能も配置。

(3) 商業機能(無料ゾーン)

- 関ヶ原の特産品や武将グッズ等の販売・飲食機能を充実。

(4) 収蔵機能

- 新施設には、他施設からの文化財の借り入れを可能とする収蔵庫を整備。
- 既施設(歴史民俗資料館)は改修し、現収蔵物等を保管。
- バックヤードツアープログラム等の醸成により、教育普及機能を強化。

3 外観

[南面外観 たたき台]

